

磐城時報

石城郡石城町平野町十四番地
編輯長 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
電話 二五五
代印所 磐城時報印刷所
一部金五圓 一月金十五圓 三月金四十圓
廣告料 一行十四字 日金五圓 一月金十五圓
日刊 日曜 日休刊

後任平町長が

青沼氏に決した事情

伏見町長に五千圓 野崎氏等は反対

平町長後任問題は伏見町長再選派と青沼氏擁立派と兩派に分れ互に策を施し暗闘を繰り返して来た事度報の如くであるが昨十九日を以て伏見町長は遂に引退を聲明するに至り、茲に後任平町長は青沼氏に確定したわけである。後任平町長が青沼氏に決したまでの経過を聞くと左の如くである。

伏見町長は既に早くから再選を希望し密かに策を講じて町會議員中の有力者と見なすべき某々氏等數人に渡りつけ之で大丈夫と考へてゐた事即ち自己を過信した事が今日の敗を招ぐに至つた主因で、伏見氏から何等渡りをつけられなかつた所謂町會の中立組の人々は聊か氣を悪くしてゐた際、青沼氏が後任町長の野心を持ち阿部太郎その他數人を訪れて意中を打ち明かしてゐる事を知つたので遂に森本氏等が青沼氏擁立運動を起すに至り、忽ちにして同派

見、青沼兩派の人々の中にも夫夫意見を有する人あり、或は青沼氏と言ひ、或は伏見氏と叫び確信性を帯びた色分けではないので結局決戦投票後ならはその勝敗何れとも判明せぬ状態であつたが、十九日に至り伏見町長は、競争する事は喜ばぬといふ表面上の理由により辭意を仄かしたので青沼派は大いに喜び伏見派の井上氏以下各氏と協議した結果、伏見氏の退職慰勞金として金五千圓を贈らうといふ事になり、二十五名の町議は一致以上十名で、青沼氏を推す事になつた。

以上十名で、青沼氏を推す事になつた。見氏派は十名で既に少數の悲哀を感ずるに至つたが、以上各氏二十五名の人々は佐々木龍若、外飽くまでも中立の態度を採る事になつた。青沼氏に賛成するやう交渉する事になつた。野崎滿藏、萩原義雄、氏に賛成するやう交渉する事になつた。吉田五平、佐藤岩次郎の四氏はなつたが、平町長後任が青沼氏最近に至つて青沼氏に反対の態度を示し伏見氏再選説に傾いて來る二十四日の町會では平穩に來たので俄然兩派の勢力は相伯青沼氏が當選する結果を見るに至つた、然し前記の伏見氏ら。

本重雄、松崎菊三郎、會川卯三郎、井上茂作、星野清吉、吉田定太郎、諸橋國松、鷹崎貞衛、大谷久藏、花澤久一郎、佐々木龍若、遠藤林松、加納五郎事になり、二十五名の町議は一致以上十名で、青沼氏を推す事になつた。

十萬圓を出さねば

愈々最後の手段

鮫川疏水對鮫電問題

石城郡内鮫川江筋復活に關して活は水利組合關係各町村の利害水利權を持つてゐる鮫川水電會に甚大な關係を持つてゐる事だ社に對し復活工費として金十萬圓あり、而も毎年早魁に苦しめらるの提供方を申し込んだ事は既れる同方部としては緊急を要する問題であるが、同江筋の復

原真吾、佐藤芳松、森本盛一、渡邊實一、櫻井清、荒川淺次郎、阿部太郎、永山義太郎、丹、榮三郎、大森勇、岩報の如くであるが、同江筋の復

石城は土木の繁盛地

責任の重大を感じます

新任小林平土木監督所長談

新任平土木監督所長小林清吉氏は十八日着任したが小林は語る「今回平土木監督所長を命ぜられたが、石城郡は縣下に於ける最も重要な土地で土木事業も繁盛の地であるから私の如き微力短才の者が此の要職に就く事は責任が重く聊か不安の念に満されてゐます然し一旦拜命した上は飽くまで努力し皆様の期待に添ふ覺悟ですから各位の御指導と御援助を願ひます、尚ほ私の抱負として申上げれば

會員募集

同和會

鳴物入りで

の幹部會を開き會社が組合の要求に應じない場合には最後の手段をとる事になつた由であるが所謂最後の手段がどんなものであるかそれは不明であるが、水利權を譲渡する際に組合と會社の間に或條件つき契約があつた由で、組合ではこの契約に基づいて交渉をなすものらしい。

平署管内組頭會

中村警察部長臨席

平警察署管内消防組頭會議は二日源一郎氏は今回平町山崎與三郎氏の媒約で茨城縣湊町吳服商川上鶴之助二女静子嬢と婚約成り近々華燭の盛典をあげる。

四倉町長は

新妻氏有力

四倉町長後任問題は過般の選舉委員會として平警察署平田、伊藤町會が欠席者があつた、ゆゑ流會となつてゐたが、町會議員は助役菅波千之助氏を推す人と、新妻盛氏を推す人の二派に分れてゐた處、菅波氏を推す人も最近では新妻氏に傾いて來たので、愈々來る二十二日町會を招集して選舉を行ふ事になつたが、満場一致新妻氏が當選するものと見られてゐる。

長源寺の僧侶

大工の妻と姦通

區長町議が調停

平町胡摩澤長源寺僧侶栗山周耕あるヨシの夫吉田馬治に知れ馬(三八)は去る十三日夜附近に住居が歸つて來たので問題を起して大工職吉田馬治妻通稱だが、胡摩澤區長花澤五六、ホスト事吉田(三二)方に於て同町花澤久一郎兩氏が調停の勞を以て密通中を附近の谷津俣をとり十八日事件は圓滿に解決に運び込まれたので兩名は大した、苟くも僧侶の身であり、いに狼狽し涙口から逃走したが乍ら亭主の留守中人妻を襲ふことは怪しからぬと非難の聲が高い

住吉屋本店の慶事

平町紺屋町住吉屋本店主人青天見られてゐる。

優勝旗授與式

本縣水産會が昨年鯉漁最高漁獲本縣水産會が昨年鯉漁最高漁獲本縣水産會が昨年鯉漁最高漁獲本縣水産會が昨年鯉漁最高漁獲

酒の脱税 槍玉に上る

平税務署では管内の酒造業者中に功妙な手段で脱税行為をなす者あるを察知し周税課員が總出動で検査に努めてゐるが、錦村酒造家眞木治郎兵衛は本年度仕込みの清酒六斗余の脱税をはかるため査定を誤魔化してゐたので第一の槍玉にあげたが、他にもこの種の反則者ある見込みで引續き活動中である。

ポスターは貼つてはならぬ

来る五月三十日を以て行はる平町會議員の選挙に當り町内各石版印刷屋が殆んど既定の収入として當込んでゐた當世流行のポスターは幾にこれに因て生ずる弊害に鑑みたま衆議院各派から内務當局に向つて全廢もしくは嚴重なる制限を設けたい旨を希望した結果茲にいよいよその廢止が決定され衆議院議員に關する分は昨十九日の公布當日から、地方議會に關する分は來月の十日以後から施行することあるから平町議の選挙にはおかげで承諾もしない自分の牆壁、欄などに對して宛然樂燕の乗込然たる肖像入りのポスターや何かを極めて無遠慮に貼られる様な御難はなくなる勘定である。同時に比較的金の餘の多い候補者が今から一と苦勞の種子としてゐたポスターがなくなるのでその方面からは私に喜ばれもするであらうが、町内の石版屋にとつてはまさに活動行きの途中に財布を遺した以上の落膽は禁じ得ざる處であらう、因に引せられ七十萬圓の平町豫算に對して天下國家の大抱負を述べる事は些か面倒にせよ尙これによる運動は依然認められるので活版屋に影響なきは勿論立札の如きも各選挙種目を通じ各五割の増加を認められるので看板屋は規則の改正によつて逆に有卦に入る事となる。

農會の運命

福田生 投

現在町村農會は農會法なる花瓶に農會なる切り花を挿入したるが如き形式の下に成立したもので、切り花自体が活力ある丈で養分輸送の根なきが故に凋落するのは自然の數である。現農會は町村長が策動して舊會委員を假に新農會法の惣代人として現行農會を成立せしめたものであるから現農會組織には全然同意書を提出したものでない。現農會組織に同意書を提出せざるが故に現農會員と呼稱せらるる者の中に常識ある者は現農會に對して責任なしと唱ひ、従つて會費納入を潔しとせぬため未納者續出の現状である。現行農會法第三十五條は明らかに必要な場合には解散を公認してゐる、農村の現状に於ては農會に依りて救はるべき何物をも期し得ないから全く無用の長物を越て農村の邪魔物であるが故に心ある者より解散を唱導せらるゝに至つたものである。同意せざる根底の上に築き上れる現農會員であるから農會員自身は責任を負ふべき限りでない、従つて公然と解散手續きを履行せざるも放任久しうして自滅すべき運命のものである。

初春興行

舊正月 十三日 兩日
十四日 兩日

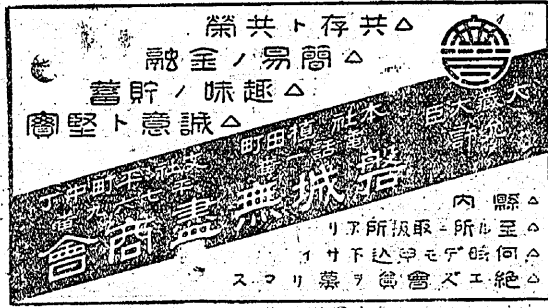
日本座 節劇 一行

二代 松之助 來る

午後五時煙火打あげ開場

入場料 大人二十錢 小人十錢

四倉町 海盛座



鳥御料理

よせなべ類

天 井

鰻 魚 榮

蒲 燒

驚いた!!!

こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物

◎躍進!!!
新發賣の品質優秀なる
イワキ石鹼
半打入五十錢
聯合賣出し中は二箱に對し福引券を差上ります
平町 四十四番
にツルヤ商店

新築移轉御披露 (平町南町)
耳鼻咽喉科 專
氣管食道科 門
病室完備、自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

外科 專門
診療科目 一般 外科 皮膚科 泌尿科 花柳病科
診療時間 (午前八時より午後九時まで) (但し急患は此の限にあらざる)
平町南町大通り (電話四三六番)
安齋外科醫院
入院隨意

外科 專門
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番

外科 專門
花柳病科
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

一葉印刷所
平町 字 仲町
電話七三四番
座敷女中頼みだし
希望の方は至急面談
平町南町 (電話四三番)
牛鳥御料理 石川亭

御期待の三大超作映畫の提供
當る廿一日より堂々上映
松竹京都下加茂作 主演林長二郎 浦波須磨子、關操助演
白井權八
美男長二郎十八番の二努力篇
日活現代派特作 鑛山熱血篇 島耕二、瀧花久子、高木永二
活劇 鑛山
地下に輝く光こそ、やがて強大な力となり光となり地上に進出する若人の力。光こそは黄金の如くに……
日活超特作 赤穂義士三浦曲の二
大河内傳次郎、梅村蓉子 主演
天野屋利兵衛
町人ながらも天野屋利兵衛は男でござんす、義と打ては忠と誓ひ……元祿快擧の血涙史……
十四日、十五日 晝夜二回 料金は普通
十六日、十七日 晝夜二回 普通 館